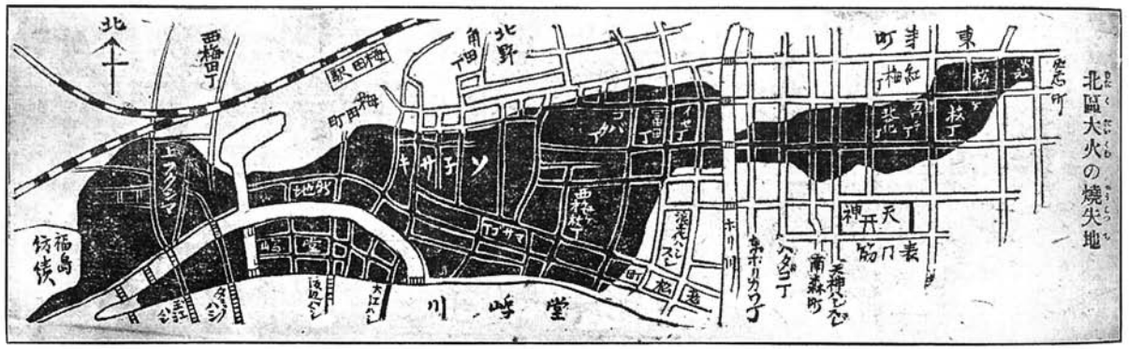
北新地の誕生とその歴史

元禄〜明治〜大正〜昭和

History



「北の大火」の焼失地（牡丹俊夫氏提供）

明治時代の曽根崎新地（大火前）
（鶴太良提供）

明治42年「北の大火」後の
曽根崎新地（現北新地）
（鶴太良提供）

1909

江戸時代の元禄年間にまで遡る〝北新地〟の歴史。
時代の流れに沿いながら、
賑わいの様子も
様々に変化してきました。
二度にわたって、街は焼失するも、
たくましくも復興を遂げ、
現在の姿へと成長を遂げました。
北新地のこれまでの歴史を
振り返ってみます。

元禄元年に堂島新地が誕生

南北を堂島川と国道2号線、東西を御堂筋と四ツ橋筋に囲まれた「北新地」の歴史は、江戸時代の元禄元年（1688年）まで遡ります。

現在の新地本通りと堂島上通りの間には、当時、堂島川から分流した曽根崎川（蜆川）が流れており、堂島川との中州を「堂島」と呼んでいました。貞享年間（1684〜87年）、川村端賢が淀川本支流の改修した際の堂島川と曾根崎川の浚渫工事により、堂島新地十一町ができました。その後の元禄元年に町割され、堂島新地が誕生しました。元禄10年（1697年）に、「堂島の米市」がここに設置されてからは、この地の周辺に多くいた各藩の蔵屋敷の役人や米市の商人を相手に、遊所地として栄えました。

北陽演舞場、大正元年12月25日起工
（浪花おどり大正5年4月号より／鶴太良提供）

1915

北新地席貸及び芸妓扱店案内図（浪花おどり大正12年3月号より／鶴太良提供）

遊所地として栄えた曽根崎新地

宝永年間（1704〜1711年）には、曽根崎川の北岸も改修がなされ、やがて、現在の地番「曽根崎新地1・2・3丁目」ができました。その後、米市が急速に発展し、周辺が商業地化したこともあり、遊所は曽根崎川を渡った曽根崎新地へと移りました。

享保16年（1731年）頃には、商業地として堂島新地、遊所として曽根崎新地と区別されるようになり、天保13年（1842年）に、曽根崎新地は公許の遊所地となりました。しかし、その頃の中心部は、現在の北新地の場所ではなく、四ツ橋筋の西側にあり、近松門左衛門作「心中天の網島」の舞台となった「大和屋」も、この界隈にあったといいます。

明治45年「北新地」が誕生

明治に入ると、遊所地の中心部が、徐々に現在の北新地の場所へと移ってきました。

芸妓の舞い（大正−昭和初期）（鶴太良提供）

昭和元年頃の芸妓（鶴太良提供）

芸妓さんと若旦那衆（大正−昭和初期）（鶴太良提供）

History

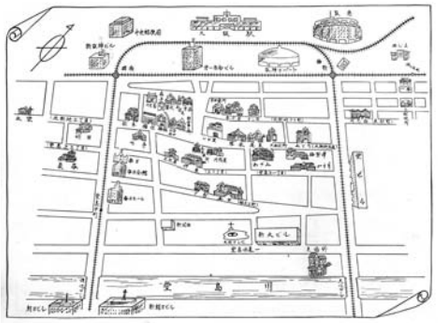
明治42年（1909年）に発生した、空心町を火元とする「北の大火」は、西へ西へと福島まで燃え広がり、辺り一帯が焼失するという明治以後最大の火災となりました。瓦礫の捨場となった曽根崎川はその後埋め立てられ、明治45年（1912年）に堂島新地と曽根崎新地が一体化されました。これが、「北新地」の誕生です。

「北の大火」に見舞われたわずか6年後の大正4年（1915年）には、「北陽演舞場」が新築されています。「北新地演舞場」が火事で焼けた後に再建されたものですが、「『天満焼け』（北の大火）から、たった数年でこれだけ大規模な建築物を造った当時の北新地の復興力と財力は凄まじいものがあった。人々の芸事に対する思いにも、強いものがあったのだと思う」と当時の貴重な資料を所蔵する、北新地社交料飲協会の元副理事長である牡丹俊夫氏は語ります。

北新地では明治15年（1882年）から、「浪花おどり」が演じられてきました。堀江の「この花踊り」、南地の「芦辺踊り」、新町の「浪花踊り」と並んで、大阪の春を飾る有名なイベントで、なかでも「浪花おどり」はもっとも古いものでした。大正7年（1918年）当時の記録では、「北新地」には芸妓置屋11軒、席貸153軒、芸妓825人がいたと記されています。

昭和初期の北新地（圓石本店提供）

平成9年開通の地下鉄東西線「北新地駅」（圓石本店提供）



昭和35年頃の北新地組合発行の芸妓扱所地図（鶴太良提供）

バー・クラブ街へ変貌を遂げた北新地

街のほとんどが焼失した戦後間もなく、諸規則が改訂され、それまでの置屋は芸妓扱所となり、席貸も待合に変わりました。

現役の芸妓として今も活躍する平田席のさく一姉さんは、「芸妓として北新地にデビューした昭和40年代には、150人ほどの芸妓が毎日、北新地のお座敷を賑わせていた」と語ります。同時に、北新地は、昭和30年代後半からの高度成長期以降、社用を中心としたバー・クラブ街へとその形を変えていきます。日本万国博覧会が大阪で開催された昭和45年（1970年）には、北新地も大盛況だったといいますが、その後、昭和46年（1971年）のドルショックや昭和48年（1973年）のオイルショック、昭和60年（1985年）の円高不況、その後、バブル景気が到来し、やがて終焉するなど、日本経済の乱降下するなかでも、北新地はしっかりとその地場を固めながら現在に至ってます。

平成9年（1997年）3月には、JR東西線開通にともなう新駅の名称が「北新地駅」となり、名実ともに日本で有数の歓楽街へと成長を遂げました。